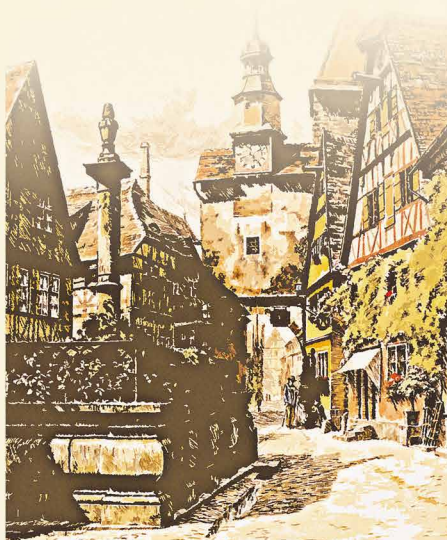




「外国語のすゝめ」



九州大学大学院言語文化研究院

Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University



総長から新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

皆さんがこれから学ぶ大学教育では、自分自身で学びたいことを選択して、その学問を究め、体系的な知識とし、それを基に自身の考えとして発展させ、形にして社会活動に役立てるという全人格的な発展の基礎を培います。

何故九州大学で学ぶことを選んだのか、折に触れて思い出してください。そこに皆さんの大学での学びの原点があります。

近年、デジタル技術の急速な発展により、グローバル化がさらに加速し、社会の在り様が大きく変容しています。そのような中、文献の読解や論文作成などの学術的な研究活動はもちろん、一般的な情報収集や情報発信でも、世界の共通語である英語をはじめ、外国語運用能力がより必要とされています。専門分野の学びに加え、語学力の向上が重要になっており、今日の国際社会で活躍するためには、多様な文化や考え方に対する理解を深めることも望まれます。世界で話されている言語は7,000以上あると言われていますが、多くの人が話しているという理由だけではなく、経済面あるいは外交面で言語がどう使われているかなども考え、学ぶべき言語を選択する必要もあると思います。言語は、思考の媒体でもあり、異なる言語の習得は、新しい思考回路を手に入れることにもつながります。

九州大学は、37ヶ国、約150機関との間で大学間交流協定を締結しており、103カ国・地域から2,600人



九州大学 総長 石橋 達朗

を超える留学生が学んでいます。彼らの多くは、母語と日本語と英語の3言語を日常的に使っています。新入生の皆さんも、ぜひ積極的に留学生と交流し、多様な言語に触れる機会を自ら作り、自分の世界を広げ、様々な考え方や価値観を共有・共感できるグローバルスタンダードな思考を身につけてください。また、海外留学は専門分野の「知」を深めるだけでなく、日常の自分自身の新たな成長に役立ち、新しい知人、友人との豊かで深い交流を持つことができます。積極的にチャレンジしてください。

この「外国語のすすめ」を通して、皆さんが初修外国語学習の必要性を理解して、多様な言語の習得に果敢に挑戦し、国際性豊かな人間として成長されることを期待しています。

世界の見方が変わる、外国語との出会い

新入生のみなさん、ようこそ九州大学へ。大学では、みなさん自身が問いをたて、みずから主体的に学んでいく姿勢がこれまで以上に求められます。みなさんが専門的知識ばかりでなく、幅広い教養を身に付け、世界のさまざまな舞台で活躍する人間へと成長していくことを期待しています。

英語を学ぶ重要性はいまさら述べる必要はないでしょう。これからは、英語の運用能力を高めたうえで、英語を用いて、人類が直面する世界的な諸課題について分析し、多様な人々と議論を重ね、解決策を見だし発信していく、グローバルな問題解決能力が求められます。

また、大学では英語以外の外国語も学びます。みなさんは、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、韓国語のいずれかを「第二外国語」として選択します。英語にくわえて、もうひとつ外国語を学ぶ意義は、どこにあるのでしょうか？もちろん、複数の言語を習得することで、より親しく接し、理解しあえる人が格段に増えることになります。

しかし、それだけではありません。

言語には、コミュニケーションの道具を超えた役割があります。言語によって、私たちは周りのさまざまな事物やできごとを分類・整理し、意味のある体系的な世界をつくりあげています。言語が異なるということは、こうした世界を切り分け、意味づけ、秩序づける方法、さらにはそれを表現する形式が異なるということなのです。

たとえば、ヨーロッパの多くの言語では「兄」も「弟」も同じ一つの単語に含まれます。英語の「blue」はロシア語では明暗によって二つの単語に分けられますし、英語の「green」が日本語では「青」と表現されることもあります。過去や未来といった時間関係の区分のしかたも、言語によって大きく異なります。



言語文化研究院長 佐藤 正則

だから、複数の外国語を学ぶことによって、世界に多様な世界観と価値観があることを実感し、自己を相対化し、世界を複眼的に見るという、真にグローバルな態度を身に付けることができるのです。

新しい外国語を勉強するときには、自分の言語と異なる部分が難しく感じられますが、その部分にこそ外国語を学ぶ意義とおもしろさがあります。こうした違いに驚き、そしてそれを楽しみながら、学んでいきましょう。

この『外国語のすゝめ』では、それぞれの外国語を教える先生がたが、各言語の特徴やそれを学ぶ魅力についてわかりやすく紹介してくださっています。また、留学や各種検定試験・資格試験についての情報、九州大学内の学習支援施設などの案内も掲載されています。ぜひよく読んで役だてください。

外国語の学びをとおして、広い世界に目を向け、真の国際的な人間への道を歩んでいきましょう！



外国語紹介

英語

皆さん方の中には、英語の読解力や文法力はあるが、英語を聞いて話すことが苦手だと思っている人がいるかもしれません。しかしながら、TOEFL、TOEICをはじめとする検定試験を受けた学生のスコアを見てみると、読解力や文法力の方が聞き取りの力より高いとはいいがたいというのが、このところの傾向です。それどころか、読解力や文法力の方が、聞き取りの力よりも劣っている場合も少なくないのです。

読解力が必要な例として、インターネットを考えてみましょう。インターネットによる情報量は、かなりのものですが、英文で書かれたインターネットの内容を使いこなすためには、正確な読解力を必要としますし、自ら情報を発信しようとする場合には、作文力が必要なのは言うまでもないでしょう。また、正確な読解力、作文力は、語彙力、文法力に裏打ちされていなければ成り立ちません。また、皆さん方が、近い将来接することになる専門分野の書物や論文、職業上必要な文献や書類などについても、正確な読みが必要とされるのは言うまでもありません。

もちろん、英語が言葉である限り、読み、書き、聞き、話すという4つの技能をバランスよく身につける必要があります。また、それら4つの技能は、それぞれ独立したのではなく、互いに密接に関係し合っています。たとえば、国際学会で英語で発表する場合、発表に対して英語で質問がなされます。その質問を理解するためには、英語の音を聞き取るという単純なリスニングの力だけでは不十分です。英語で発せられた質問の内容を正確に理解するためには、その英語の内容を理解する読解力が必要です。また、質問に正確に回答するためには、話す力が必要ですが、英語らしい発音や会話の決まり文句を覚えただけでは、不十分なことは自明のことでしょう。つまり、自分の言いたいことを英語で正確に伝えるためには、十分な語彙力と構文を組み立てる文法力、そして、英語の論理構造に対する知識に裏打ちされた作文力が必要なのです。

それから最後に一言。英語の発祥の地イギリスは、文豪シェイクスピアを生んだ国です。『不思議の国のアリス』や『くまのプーさん』もイギリス生まれです。また、アメリカをはじめとする他の英語圏の国々にも優れた文学や文化があります。コミュニケーションのためには、言葉だけでなく、文化的な知識も不可欠です。ぜひ、英語圏の国々の文化的な側面にも触れてみてください。



ドイツ語

ドイツ語は西ゲルマン語に属する言語で、英語とは兄弟の関係にあります。ドイツ、オーストリア、スイス、リヒテンシュタイン、ルクセンブルクの公用語になっているほか、東欧諸国のかなりの地域でも話されており、ヨーロッパでは最大の約1億3千万の使用人口をもちます。私たちの学ぶ「標準ドイツ語」は、ルターの聖書翻訳や印刷術の普及をきっかけに成立し、ゲーテやシラー、グリム兄弟らの努力によりできあがった、一つの歴史的・文化的作品といえるものです。

ドイツ語には、18世紀後半から20世紀にかけ、自然科学・社会科学・人文科学・芸術の各分野で世界をリードした人々の遺産が、豊富に蓄積されています。その文献が直接読めるようになることは、表面的でなく本格的に学問に取り組もうとする皆さんにとって、はかり知れない意味をもつでしょう。

しかし、現在のドイツ（1990年に東西ドイツが再統合）は、むしろEUにおける政治・経済の中心として、また先進的な環境政策・社会福祉政策をもつ国、サッカーが強い国として知られています。ドイツ語を学ぶことは、これらの分野の最新情報に触れる格好な機会ともなります。

では、そのドイツ語とはどんな言語なのでしょうか。単語は英語とよく似たものが多くあります。でも、英語に比べ、つづりと発音の関係はずっと簡単です。母音a/i/u/e/oはローマ字式に「アイウエオ」と読めばよく、英語のcat、cake、callに含まれるaのように単語によって異なる読み方をすることはありません。一方、文法は、動詞や名詞・形容詞の語形変化があつて、最初のうちは少しとまどうかもしれません。しかし、初めの数か月がんばって基礎をマスターすれば、最初は難関と見えた文法が、いつのまにか理解や表現を手助けしてくれる、頼りになる味方に思えてくるものです。語形変化することで文中の名詞の役割が明示され、自由な語順や精密な意味伝達が可能になる便利さを、ぜひ味わってほしいと思います。

文法とは、つまるところ、その言語を使う人々が世界をどのように見、どのように考えているかの体系に他なりません。ドイツ語を学ぶ経験が、皆さんにとって英語や日本語、そして言語というものをみつめなおすよい機会になることを期待しています。

下記サイトもご覧ください。

<https://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~de/>



フランス語

フランス語は、ラテン語を母胎とし、ゲルマン系のフランク族の言語の影響を受けて成立した言葉です。イタリア語やスペイン語とは姉妹の関係に当たります。

17世紀に絶対王政を築いたルイ14世以来、ヨーロッパの公用語として、各国の宮廷やサロンで話されてきました。18世紀には啓蒙思想を、フランス革命以降は自由主義思想を広く世界に伝えてきました。

現在でも芸術や思想、ファッションの発信手段となるだけでなく国連などの国際機関の公用語となっています。フランス語が話されるのはフランスだけではなく、ベルギー、スイス、モナコ、ルクセンブルクなどのヨーロッパ圏に加えて、カナダ、アフリカ諸国でもフランス語が使われています。さらに、カリブ海、インド洋の島々といった地域をあげることができます。こうした広い地域圏の中で話されるフランス語とは、どんな言葉なのでしょう。

これまで外国語というと、英語を中心に学習してきた耳には、その発音は新鮮なものとして響くでしょう。鼻母音をはじめとする発音の仕組みは英語がリズム系であるとするれば、メロディー系に属すると言えるかもしれませんが。また英語と比較すれば、豊かなヴァリエーションに富んだ時制表現が挙げられるでしょう。自分の置かれた状況を的確に表す言い方が、表現の中に蓄えられています。こうした特長をもつ言葉にチャレンジしながら、語りの幅を広げていくことができるでしょう。

フランス文化の基本的性格として、異文化に対する尊敬の念を挙げておきましょう。フランス人にとって、文化とは多様であることが自然な姿なのです。この姿勢から生まれる文化包容力は、他の様々な言語文化と共生しながら、交流を通じて豊かな世界を作り上げようとします。伝統文化を守りながらも、日本のマンガ文化にも目を向けたりしています。オーソドックスなシャンソンの脇で、アフリカ、アラブ社会の音楽に影響を受けた新しいサウンド、アングロ・サクソン系のロック・ミュージックとも異なるサウンドが、人々の心を捉えています。多言語のダイナミズムを生きる言葉、画一化、均質化とは無縁の言語、それがフランス語です。



中国語

中国天津市に天津飯も天津甘栗も存在しないと同じように、中国には「中国語」という表現は存在しません。中国大陆には人口の9割以上を占める漢民族を含む56の民族が暮らしており、民族ごとに言語が異なります。主として漢民族が使用している言語は「漢語」と呼ばれ、中国の標準語としての漢語は「普通話」とも呼ばれています。学校や仕事で用いられるフォーマルな言語です。これに対して、日常生活におけるインフォーマルな場面で多用されるのは、漢語の方言や各民族の言語です。ここでは普通話を使的に中国語と呼ぶことにします。

近年、多くの国で中国語の学習者が急増しており、日本国内でも同様な傾向が見られます。ただし中には、「ほかの外国語に比べ中国語は比較的簡単だ。特に文章を読むレベルなら、日本語の漢字の知識を活用して、それほど努力しなくても大丈夫」というような甘い考えを持っている学生がいるようです。

確かに中国語はすべて漢字で書かれており、日本語と共通する語彙も存在します。しかし、音声面からみれば、中国語には音の高低を伴う4種類の声調のあることが、日本語や英語と異なります。ピンイン（中国語をローマ字で表音化したもの）が同じでも、声調が変われば漢字も意味も変わってきます。たとえば、ピンイン「shìjian」に異なる声調の組み合わせを付すと、「时间 shíjiān（時間）」「事件 shìjiàn（事件）」「实践 shíjiàn（実践）」「世间 shìjiān（世間）」など、様々な語彙が生まれます。声調を1つでも誤って発音すると、通じなくなります。

形態論の観点からみれば、膠着語に分類される日本語に対して、中国語は孤立語に分類されます。多くの言語にある「格」を表す文法標識はほとんどなく、中国語では語順で文法機能を表します。たとえば、「我看完书了（I have read a book.）」と「书我看完了（I have read the book.）」のように、英語では定冠詞と不定冠詞を用いて既知情報と未知情報を区別する用法がありますが、中国語では語順で区別することができます。

以上のように、漢字の共通性を除くと、日本語と中国語は全く異なる言語であることがわかります。安易な気持ちではなく、中国語に真剣に向き合う気持ちで、授業に臨んでもらいたいと切に願っています。





外国語紹介

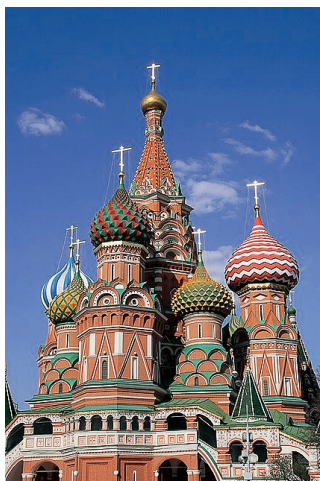
ロシア語

2022年2月のウクライナへの侵攻により、国家としてのロシアは欧米諸国との対立を深め、日本とロシアとの関係も悪化しています。しかし、世界においてロシアがきわめて重要な国の1つであるという事実には変わりはありません。このような状況のもとで、ロシアの政治・社会・歴史を深く研究し理解する必要性、そして、ロシア語を学ぶ意義はむしろ高まっていると言ってよいでしょう。

また、今般のロシア政府・軍の行動によって、ロシアの持つ豊かな文化と歴史の価値が失われるわけではありません。ドストエフスキーやトルストイに代表される文学、チャイコフスキーらの音楽、美しいバレエ、厳かな宗教画(イコン)、さらには、その斬新さで世界の現代芸術のさきがけとなったロシア・アヴァンギャルドなどなど、ロシアには多彩な文化があります。ロシア語を学ぶことで、こうしたロシアの文化にもっと親しむことができるようになります。

ロシア語はロシアばかりではなく(ロシア一国だけでも十分広大ですが)、かつてソ連邦であった地域を中心に2億3000万人を超える人々によって話されています。ロシア語というと、あの「奇妙な」文字を思い浮かべる人が多いことでしょう(もっとも、見慣れない文字だからといって、発音まで「変わっている」とは限りません。念のため...)。じつは、ロシア語の文字はギリシア文字からつくられています。これはロシアがビザンツ帝国からギリシア正教を受容したためです。他方、英語と同じ文字を使う西欧の多くの言語は、カトリック教の文化圏に属しています(東西キリスト教会の分裂については世界史で習ったでしょう)。文字にはこうした歴史的、宗教的な背景があります。だから、ロシア語を学ぶことで、カトリック教中心の西欧とは異なる宗教文化に触れることができます。

ロシア語の大きな特徴として、文の中での役割(主語、目的語など)によって名詞が形を変える点があげられます。人の名前も変化します。日本語には「て、に、を、は」がありますが、それと同じような機能を果たしています。こうした変化の規則は、最初のうちは厄介に感じられるでしょうが、基本的な構造を身につけさえすれば、かえってわかりやすくなるという利点もあります。



韓国語

韓国語は「朝鮮語」とも呼ばれ、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の住民の圧倒的多数が母語とする言語です。また、中華人民共和国の朝鮮族、ロシア連邦やウズベキスタン、カザフスタンなどの高麗人、日本の在日コリアンなどによっても使用されており、8,000万人以上の話者人口を有する大言語と言えます。

韓国語には様々な地域方言があり、言語学的には大きく6つほどの方言区画に分類されますが、南北ともにその標準語は基本的にソウル方言に基づいています。

韓国語の系統は未だ不明ですが、文法構造の面では、日本語やアルタイ諸語(ソングース諸語、モンゴル諸語、チュルク諸語)と類似しています。例えば、格関係を表すのに助詞を用いたり、SOVを基本語順とするなど、その類似点は枚挙に遑がありません。いわゆる敬語の体系も日本語と同じく高度に発達していますが、概ね日本語が相対敬語であるのに対し、韓国語は絶対敬語であるなど、同じ敬語体系を有していても相違点が見られます。なお、形容詞と動詞の一義的形態論的区別がない点は、ギリヤーク語(ニヴフ語)等と共通しています。

音韻の面では、日本語と大きく異なります。母音、子音の各々が日本語のそれよりも多く、音節構造も閉音節が多く現れます。音節末には7種の子音がひとつ立ち得ます。形態音韻論的交替も激しく、これは韓国語の難しいところでもあり、面白いところでもあります。現代韓国語(ソウル方言)には高低アクセントはなく、いわゆる長母音も事実上崩壊しています。これらも日本語と異なる点です。

語彙は、その出自から、固有語、漢字語、外来語、混種語の4種の語層に分類されます。漢字語は朝鮮漢字音で読まれ、日本語の漢語と共通した語が多くあります。

文字は、「ハングル」と称される、1443年に目的意識的に作られた人工的な文字を使用しています。子音字は発音器官、母音字はいわゆる三才(天地人)を象っています。ハングルは1字母1音を原則としつつも、その字母を音節ごとに組み合わせて1文字を形成するため、音素文字としての性格と音節文字としての性格の双方を併せ持っています。漢字語については、漢字で表記することも原理的には可能ですが、現在の韓国においては、一部の人文系の学術書などを除き、漢字はほとんど用いられません。



スペイン語

スペイン語は、スペイン、中南米諸国、アメリカ合衆国など、世界中の約5億の人々によって話されている国際語で、国連の公用語のひとつにもなっています(ちなみに国連の公用語は英語・フランス語・ロシア語・中国語・アラビア語・スペイン語です)。最近では、経済、文学、美術、建築といった分野に限らず、スポーツ(特にサッカー)、音楽、料理など多くの分野で、スペイン語圏に対する関心が高まってきています。このようなスペイン語圏の文化・社会に対する興味を真の意味での「教養」に変えるためには、何よりもスペイン語を始めてみるのが一番です。

スペイン語は古代ローマ帝国で話されていたラテン語が変化してできた言語です。このようにラテン語を母体とした言語には、他にフランス語、イタリア語、ポルトガル語、ルーマニア語などがあります。これらは同じラテン語から生まれたいわば姉妹言語ですから、スペイン語を学習すればフランス語やイタリア語などにアプローチすることも容易になります。以下、初めてスペイン語に触れる人にとってそのアウトラインを紹介してみましょう。

まず、文字は基本的には英語と同じです。発音は、一般に、日本語を母語にする人にとっては簡単だと言われています。それは、スペイン語の音が日本語と同じく母音と子音の組み合わせからなっていること、しかも母音の数が日本語と同じく5つだけで、ほとんどローマ字読みでOKなことによります。

文法は、英語しか知らない人から見ると、冠詞や形容詞さらに動詞の形が変わり、最初は複雑に感じられるかもしれませんが、この複雑さも最初の数ヶ月を克服さえすれば、まったく異なったものにみえてきます。それまでバラバラに覚えてきた事柄がピタッと収まるべきところに収まり、スペイン語の美しい規則性がその姿を現してくるからです。このスペイン語の美に触れるには努力が必要ですが、外国語学習に楽な道などないのは、みなさんよくご承知のことと思います。ぜひこの機会に大学生らしい実りある努力に挑戦してみてはいかがでしょうか。



その他の外国語

言語文化科目ではないものの、総合科目として下記のエスペラントの科目が開講されます。開講科目や時間割など詳しいことは、入学手続後に配付される『令和8年度基幹教育履修要項』ならびに基幹教育院のWeb Pageを参照してください。

エスペラント

エスペラントは1887年にポーランドのユダヤ人眼科医ザメンホフ博士によって作られた人工国際語です。当時のポーランドは帝政ロシアの支配下で、ロシア人、ドイツ人、ポーランド人、ユダヤ人が対立していました。民族間の憎しみや誤解の原因は共通に理解できる言語がないことだと考えたザメンホフは、どの民族にとっても中立で、習得も容易で、民族間の橋渡しになる言語を作ろうと考えたのです。人工語なので文法には不規則変化や例外がなく、発音も簡単で、とても学びやすい言語です。



L. L. Zamenhof (1859–1917)



SALCの紹介

九州大学・伊都キャンパスのSelf-Access Learning Center (SALC: センター1号館1階)は、正課の授業外での自主的な学習をサポートするための場所です。英語、日本語、スペイン語、ラテン語、ドイツ語などの言語、および文化、歴史、哲学に関する雑誌や書籍の閲覧、語学検定試験相談・対策を含む多言語学習のサポートを提供しています。また、学内外の各種留学・研修プログラムに関する情報も常時提供しています。

さらに、SALCは、留学生と日本人が交流するコモン・エリアとして、学内での異文化交流、ならびに九州大学の国際化の促進に貢献することを目指しています。専門スタッフ、学習サポーター(留学生の大学院生)は、アメリカ、メキシコ、マレーシア、クロアチア、チュニジア、エジプト、トルコ、イギリス、コスタリカ、ブラジル、ウルグアイ、スリランカ、ジンバブエ、イタリア、ドミニカ共和国など、世界各国から集まっており、みなフレンドリーで、多くの利用者がリラックスした雰囲気の中で、自分の興味に応じた言語学習を楽しんでいます。外国に行かずとも、ここSALCに来て、異なる文化的背景を持つ留学生と交流し、日本人同士の交流では得られない国際的感覚を磨くことができます。それは、自国の文化や価値観、あるいは自分自身をも客観的に見つめ直す貴重な機会となることでしょう。

その他、学期中、曜日毎に英語以外の言語で留学生と交流ができる各言語のランゲージテーブル(スペイン語・中国語・日本語など)を開催しています。また、午前

11:00以降には、読書会、Pictionary(お絵描き連想ゲーム)、Movie Night、Game Nightなど、様々な時間帯に多様なテーマで身近に言語に触れられる各種イベントを開催し、言語学習を楽しみながら異文化交流を深める絶好の機会を提供しております。利用者の中にはSALCを利用して言語の力を伸ばし、留学の夢を叶えた方々も多くいます。そうした留学経験者の話もSALCに來れば聞くことができます。あなたもぜひ一度SALCをのぞいてみてください。待っています!

▼SALC's Website ~SALCについてもっと知ろう!~

[https://archive.iii.kyushu-u.ac.jp/proself/list/propfind.go/filelist\(メンテナンス中\)](https://archive.iii.kyushu-u.ac.jp/proself/list/propfind.go/filelist(メンテナンス中))

▼SALCのSNS

~近日開催イベント・ニュースをチェックしよう!~

SALC's Facebook

アカウント: <https://www.facebook.com/salckiyudai>

SALC's Instagram

アカウント: <https://www.instagram.com/kyushusalc/>

SALC's Twitter

アカウント: <https://twitter.com/KyushuSalc>



ランゲージ・テーブル

学内の異文化交流の場として、学生有志により、中国語、韓国語、スペイン語などのランゲージ・テーブル(昼休みにランチを持ち寄って、留学生と気軽におしゃべりをする交流会)が定期的に開催されています。学習言語を実

際に使ってみたり、母語話者の友人を作ったりできる、大変貴重な機会です。詳細は、国際部とSALCのHPをご覧ください。

異なる世界との出会い

言語文化研究院 助教 橋本 紘樹

外国語を学ぶ意義はどこにあるのか？そう聞かれると、つい答えに窮してしまいます。すさまじい速さで技術が発達し、さまざまな翻訳ツールも生まれてくると、わざわざ時間を割いて勉強する気がそがれてしまう、つついそんな風に感じてしまうものです。もちろん、現段階では技術はまだ完全ではありませんし、外国語学習に取り組むうえで、「実用性」はまちがいなく重要な要素の一つです。とはいえ、他言語を知るという営為は、もっと広い射程を有してもいます。

「外国語を知らない者は自国語について何も知らない」。これは、ドイツの文豪ゲーテが残した有名な一文です。煎じ詰めれば、「外」がわからなければ「内」を相対化する視点を持たない、という意味でしょうが、少し具体的に考えてみましょう。たとえばドイツ語には、男性名詞、女性名詞、中性名詞（＋複数形）という区分があり、それに応じて、職業など「人」に関連する単語には、それぞれ男性形と女性形があります。「大学生」を表す単語を見てみると、男性を示す「Student」と、女性を示す「Studentin」の二種類がある、ということです。しかし近年では、「studieren（勉強する）」という動詞を現在分詞形にして名詞化しつつ、男性形には語尾-erを、女性形（＋複数形）には語尾-eをつけた「Studierende[r]」という、より包括的でジェンダー中立的な表現が用いられるようになってきました。歴史的に形成されてきた言語のなかに、アイデンティティに関わる問題が浮かび上がっているのです。日本語に目を向けてみるとどうでしょうか。たしかに日本語には、そうした男性形と女性形の区分はないかもしれませんが、同種の問題がないかと探してみると、たとえば一人称の多様さに気づかされます——ドイツ語では「ich」の一種類！「わたし」、「わたくし」、「ぼく」、「あたし」、「わし」など、どの局面でなにを使用するかによって「自分」というものをどう表現したいか（すべきか）が変わってきます。これもまた、言語とアイデンティティが密接に結びついた事例といえるでしょう。このように、「外」から「内」を照らすことで、日本語の持つ思わぬ特性に気づくことができるのです。

また、英語が「世界共通語」として幅広く受容されていく世界にあっては、英語教育に重点が置かれがちです。たしかに、グローバル化が進む中で英語は非常に大切な言語ではあるけれど、それだけに頼ることは、物事を考える視野を限定してしまいます。私はドイツ語の書籍を日本語へ翻訳する仕事をしているのですが、その際、その本の英語訳も参照するようにしています。英語訳は、解釈に迷うときにとっても参考になるのですが、一方で、文意をはっきりとさせるために部分的な省略が起きていたり、もとの文章のニュアンスがそぎ落とされていたりする個所がときおり見受けられます。もちろん、英語訳というのは、英語圏の読者に理解可能な形で届けることを目的としているので、それ自体は一つの方法として尊重すべきでしょう。重要なのは、英語とてあくまで「一つの見方」でしかない、という認識を頭の中に入れておくことです。ますます情報が多元化していく世の中において、多言語に精通していれば、自分の目で見て思考する幅が大きく広がることでしょう。

ちょっと堅い話が続いてしまいました。正直に申し上げて、私自身が大学で語学を学ぶとき、そんな大層なことはまったく考えておらず、ましてドイツ語を職業とすることなんて、思いもよりませんでした。ですが、たとえ研究者になっていなかったとしても、旅行や留学、あるいは日本において、語学を一つの機縁として知り合った人たちとの思い出は、きっと記憶に残り続けていたことでしょう。外国語を習得するには高いハードルがありますし、その意義について小難しく考えたところで、なかなかモチベーションにはなりません。みなさんには、なによりもまず、これまで自分が使ってきた言語から身を引き離して「別の世界」に飛び込むことで、異質な文化に対して新鮮に驚きながら、バックグラウンドの大きく異なる人たちとかわりあえる貴重な時間を、ぜひ体験してみしてほしいと思います。



各外国語の検定・資格試験案内

		特 色	試験時期	最寄りの試験場	受験料
英 語	TOEFL	英語を母語としない留学希望者の英語力をみるテスト。 従来ペーパーによる試験であったが、最近ではインターネットを用いたTOEFL Internet-Based Testのみになった。 〈 http://www.ets.org/toefl 〉〈 https://www.toefl-ibt.jp 〉などを参照。 TOEFL Internet-Based Test (iBT: 最高点120点)	iBT 年間50日程度 (主に土日) ただし、再受験の場合には中3日を空ける必要あり。	iBT福岡 自宅受験型もあり	US\$245
	TOEIC	国際コミュニケーション(主にビジネス)の場で必要とされる英語能力を測るテスト。 〈 https://www.iibc-global.org/toeic.html 〉を参照。	年15回程度。なお、受験地により年間の試験実施回数が異なるので注意。	福岡、北九州等	Reading&Listening で7,810円
	(英検) 実用英語 技能検定	1級から5級までであるが、九大生は準1級以上を目指したい。 詳細は〈 http://www.eiken.or.jp 〉を参照のこと。	年数回 (なお、2次試験はそれぞれ翌月)	福岡等	11,800円(1級) 9,800円(準1級)
	IELTS	ブリティッシュ・カウンシルなどが主催する英語力の試験で、英、豪、加などの大学等で利用されている。 〈 https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts 〉を参照。	全国18会場ですべて実施(福岡では月1回程度)	福岡等	25,380円
ドイツ語	ドイツ語検定試験(独検)	1級から5級まで。ちなみに、4級は九大の1年次の11月までには学習済みの範囲。普通に授業に出ていれば、合格ライン(例年60点前後)より10点くらい上で合格できる。3級は2年次の6月までに学習済みの範囲。 詳細は〈 http://www.dokken.or.jp 〉を参照のこと。	6月、12月	福岡	4,500円(5級) 5,500円(4級) 7,500円(3級)
	オーストリア政府公認 ドイツ語能力検定試験	国際的に通用するドイツ語の検定試験で、世界の約130の機関で実施されている。1年間学習すればA1またはA2は十分合格できる。 詳細は〈 https://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~de/oecd 〉を参照のこと。	7月、2月	福岡	14,000円(A1) または学割価格で 12,000円(A1) 16,000円(A2) または学割価格で 14,000円(A2) 20,000円(B1) または学割価格で 18,000円(B1)
フランス語	DELF フランス語検定試験	A1、A2、B1、B2の段階があり学習時間60~100時間でA1というのが一応の目安・年2回試験。福岡でも受験できる。 詳細は〈 http://www.delfdalf.jp/ 〉を参照のこと。	5~6月、10~11月	福岡	11,500円(A1) 14,500円(A2) 20,000円(B1) 24,000円(B2)
	実用フランス語 技能検定試験	1級、準1級、2級、準2級、3級、4級、5級。大学2年程度では、3、4級あたりが目安になると思われる。 詳細は〈 http://apefdapf.org/ 〉を参照のこと。	春季6月(2次試験は7月) 秋季11月(2次試験は1月)	福岡	7,000円(3級) 6,000円(4級) 5,000円(5級)
中国語	HSK 漢語水平考試	中国政府公認の国際的な中国語能力検定試験。中国留学や就職に利用されることが多い。2種類の試験に分けられ、筆記試験(リスニングを含む)は1級~6級、口頭試験は初級・中級・高級。種別・レベル別に受験できる。 詳細は〈 https://www.hskj.jp/ 〉を参照。	基本的に毎月実施されるが、日程により実施される会場・種別・レベルが異なる。 詳細は公式HPを確認。	福岡	3,850~11,550円(筆記) 6,050~8,250円(口頭)
	中国語 検定試験	日本中国語検定協会主催の中国語検定試験。準4級から1級までレベルに合わせて受験できる。 詳細は〈 https://www.chuken.gr.jp/ 〉を参照。	3月、6月、11月の年3回	福岡	3,800~11,800円
	TECC 中国語 能力検定	英語のTOEICに類似、1種類の問題で受験者の中国語能力をスコアで測定。2021年から、自宅でオンライン受験ができる「TECC-iBT」が新設。 詳細は〈 https://www.tecc.exam.info/ 〉を参照。	公式HPを確認 (2025年3月から26年3月まで 中断中。)	福岡	7,590円
ロシア語	ロシア語 能力検定	1級から4級まで。 2年生ならば3、4級は合格できる。	1、2級は10月 3、4級は5月、10月	福岡	5,000円(4級) 6,000円(3級) 7,000円(1、2級)
	ロシア語 検定試験 (P&K)	入門、基礎、第1、2、3、4、の6段階。1998年から外国人を対象としてロシア連邦教育省がおこなっている検定試験。 2年生ならば、入門・基礎は合格できる。	2月、6月、8月、10月、12月	東京	22,000円(入門・基礎) 23,000円(第1) 24,000円(第2) 25,000円(第3) 26,000円(第4)
韓国語(朝鮮語)	韓国語 能力試験	TOPIKI(1~2級:初級)・TOPIKI(3~6級:中級+上級)の2つから選択。 詳細は〈 https://www.kref.or.jp/examination 〉を参照。	4月、7月、10月	福岡	5,000円(TOPIKI) 7,000円(TOPIKI)
	韓国語 検定試験 (ハングル 能力)	1級から5級まで。(準2級あり) 詳細は〈 https://www.hangul.or.jp/ 〉を参照。	6月、11月	福岡	3,700円(5級)~ 10,000円(1級)
スペイン語	文科省認定 スペイン語 検定試験	1級から6級まで。九大生が1年間スペイン語を学習した場合、4級から6級までの受験が可能。 詳細は〈 http://www.casa-esp.com/link-examen.html 〉を参照。	春季6月(2次試験は7月) 冬期12月(2次試験は1月) ただし、2次試験(面接形式)は1級から3級のみ。	福岡	7,700円(4級) 6,600円(5級) 5,500円(6級)
	文部省認定 スペイン語 検定試験	A1・A2・B1・B2・C1・C2の6段階からなるが、九州大学でスペイン語を履修した場合、A1・A2レベルまでの受験が可能。 詳細は〈 http://dele.jp/ 〉を参照。	5月、11月の年2回	福岡(5月) 広島(11月)	11,000円(A1) 13,000円(A2)

※ 最新の情報に関しては各ウェブサイト参照して下さい。

交換留学 Q&A

九州大学は、学生交流協定を締結している海外大学への留学(「交換留学」)を推奨しています。交換留学には、①**大学間交換留学**と②**部局間交換留学**の2種類があります。平成8年度の制度開始以来、多くの学生が海外大学への留学を果たしてきました。

交換留学の種類	協定	対象	相談窓口
①大学間交換留学	大学間学生交流協定	全学の学生	国際部留学課
②部局間交換留学	部局間学生交流協定	当該部局(学部・学府)の学生	所属学部・学府の学生担当係

ここでは、主に①について記載します。なお、掲載情報は、変更の可能性があります。**最新の情報は後述Global Gatewaysのウェブサイトをご確認ください。**

Q 交換留学とはどのようなもので、どのような大学への留学が可能ですか？

A 交換留学では、九州大学が海外の大学と締結した学生交流協定に基づき、**1学期から1年以内の期間**で留学します。留学期間中は在学扱いとなり、**九州大学に授業料を納めていれば、留学先大学では授業料を徴収されません**。留学先大学で取得した単位は帰国後、所属学部・学府に申請し、**単位互換が認められれば九大での単位として取り扱うことができます**。

派遣実績のある大学については下記ウェブサイトをご覧ください。

《九州大学協定締結校》

<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/agreeview/worldmap.php>



Q どのくらいの語学力が必要ですか？

A **留学希望先大学が要求する語学スコア**を満たす必要があります。英語以外の言語で留学する場合も同様です。

各大学で要求されるスコアについては下記ウェブサイトでご確認ください。

《大学間学生交流協定校 申請書等一覧》

<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/agreeview/agree-list3.php>



留学課では、**語学力向上のためのスキルアップセミナー**等を実施しています。

https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/prep#study_prep_3



また、SALCやマルチリンガル交流スペース、留学生との交流など、九州大学が有する様々なリソースも活用することができます。

●SALC(Self-Access Learning Center: サルク)

授業外で行う英語学習をサポートする場所として、英語学習教材や英会話、学習相談等の支援を提供しており、伊都キャンパスセンター 1号館1階にあります。詳細は7ページをご覧ください。

●マルチリンガル交流スペース (EZぱらっと)

伊都地区イーストゾーンに在籍する学生の皆さん(留学生の方々を含む)への留学支援、国際化支援、語学学習支援、相談先案内などを行っています。詳細は11ページをご覧ください。

●留学生との交流(チューター・サポーター)

九大生(正課生)が「チューター」となり、外国人留学生の諸手続きの手伝いや、キャンパス／福岡市内の案内などのサポートを行います。

外国語でのコミュニケーション力の向上や海外留学とは逆の立場から留学体験を眺めることができ、国際的視野の拡大にもつながります。詳細はこちらをご確認ください。



Q 学内選考はどのように行われますか？

A 募集は年に2回行います。第1回は**7月頃募集開始**、11～12月頃選考、第2回(追加募集)は枠が残っている協定校について、**翌4月頃募集**、5月頃選考の予定です。また、募集開始前には**交換留学説明会**を開催する予定です。募集の詳細は各学部・学府等の学生担当係を通じて周知するとともに、後述の**Global Gateways**、**海外留学メールマガジン**等でもお知らせします。

選考は書類審査で行なわれ、申請内容によっては面接が実施される場合があります。

海外留学の情報収集

○九大生向け留学情報ウェブサイト「Global Gateways」

まずは、このサイトとサイト内に掲載の「**留学ガイド**」に目を通しましょう。情報収集した上で相談したいことがあれば、メールや窓口での相談を検討してください。

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>



○海外留学メールマガジン

登録すると海外留学情報がダイレクトに配信されます。学生ポータルシステム(Campusmate-J)により、以下の手順でご登録いただけます。

ログイン>「Myツール」>「メッセージ転送設定」>「海外留学情報」にチェック

○留学課SNS

●Instagram



●X(Twitter)



○留学相談窓口

●お問い合わせ先メール

ryugakuinfo@jimu.kyushu-u.ac.jp

●国際部留学課(伊都センター4号館4F)

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=29990>



○日本学生支援機構(JASSO)「海外留学支援サイト」

http://ryugaku.jasso.go.jp/oversea_info/



イギリスで英語を学ぼう

— 語学・学術研修について —

以下のような研修旅行があり、九州大学の英語科目として実施します。

英語・学術研修

研修先 英国ケンブリッジ大学ペンブローックカレッジ



期 間

事前研修 11月～8月

現地研修 申込翌年の8月下旬～9月中旬の3週間強

人 数

23～30名

研修内容

原則として、学寮に滞在しながらペンブローックカレッジが提供する英語集中コースと講義科目(自然科学、人文科学から選択)を中心に、晩餐会など各種イベントを体験。週末は独力で準備した自由旅行。

説明会・その他

下記を参照してください。特にコロナ禍や奨学金残高により、催行の有無について最新情報を御確認ください。

<http://yubunsuzuki.com/concept.html>

マルチリンガル交流スペース(EZぷらっと)について

マルチリンガル交流スペースは、伊都地区イーストゾーンに在籍する学生の皆さん(留学生の方々を含む)への留学(生)支援、国際化支援、語学学習支援、相談先案内などを行う施設です。イーストゾーン共同の施設として、言語文化研究院教員(団)が運営を担い、愛称は「EZぷらっと」です。

個人やグループで使える学習スペースがあり、各種検定

試験の学習参考書をはじめ、多言語の書籍や視聴覚資料を利用することができます。書籍の貸出・DVDの室内視聴を行っています。

また、留学生と日本人学生の交流の場としてのイベントや勉強会の他、様々な支援を提供しています。



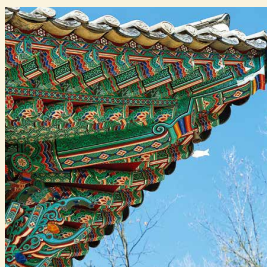
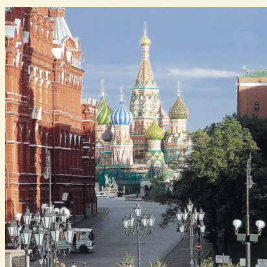
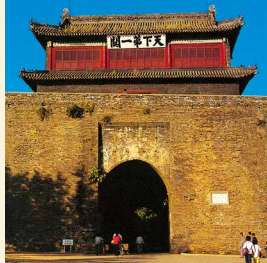
▼マルチリンガル交流スペース(EZぷらっと)

イースト1号館2階E-C-202号室

- 開室時間 月曜日・火曜日・木曜日・金曜日:
10時～13時、14時～18時
水曜日:
12時～13時、14時～18時
但し臨時閉室もあり得ますので、
ウェブサイトを確認ください。

●ウェブサイト

<https://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~ezplat/index.htm>



九州大学大学院言語文化研究院

Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

genbun@flc.kyushu-u.ac.jp

<https://www.flc.kyushu-u.ac.jp>

編集：九州大学大学院言語文化研究院 広報委員会

2026年3月 発行